平成21年度事業報告（抜粋）

Ⅰ　公益認定申請に向けての準備

Ⅱ　囲碁普及活動の実施

1　棋士囲碁普及活動制度による囲碁普及

1-1　棋士による普及活動の展開

(1)　生活文化普及支援事業「みんなで学ぶたのしい囲碁入門教室」を実施した。

(2)　学校教育への囲碁導入を目指し、学校への新規囲碁指導活動を支援した。

(3)　全国へ棋士派遣を年間約700件実施し、地域の囲碁普及活動を支援した。

(4)　囲碁学校では、団塊世代向けの入門講座を開始するなど充実を図った。

(5)　本院・八重洲での指導碁を毎日開催して、棋士の直接指導の機会を拡充した。

(6)　幽玄の間」のネット指導碁で、多くの棋士が参加するキャンペーンを実施した。

1-2　棋道研鑽

(1)　若手棋士を強化するための研鑽棋戦「幽玄杯」を開催した。

(2)　院生強化支援として、トップ棋士による検討会、ネット指導碁を実施した。

2　青少年への囲碁普及活動の充実

2-1　生活文化普及支援事業の実施

文化庁より「生活文化普及支援事業」の囲碁部門を受託。9月からの半年間で、40都道府県の約300団体（支部・教育委員会等）のご協力により、「みんなで学ぶ楽しい囲碁入門教室」を全国各地で延べ約850回実施した。

2-2　学校教育への囲碁導入推進

小・中・高校・地域に密着した囲碁事業を推進するため、地方自治体、行政に囲碁の取り組みを依頼。行政囲碁事業のモデル地区として秋田県大仙市、東京都品川区等においても学校囲碁普及を展開した。

2-3　学校囲碁指導員講習会の開催継続

財団法人ＪＫＡ競輪補助事業の後援助成を受け、学校囲碁指導員講習会を全国17会場で開催した。

2-4　こども囲碁教室を全国各地で開催

(1) 日本棋院内のこども教室及び入門教室を充実強化した。

(2) 文化庁の「伝統文化こども教室事業」を紹介し、日本棋院各支部や各自治体等が主催する「こども囲碁教室」に棋士を派遣するなど協力した。

(3) 昨年に引き続き、ヒカルの碁スクールを全国47会場で実施した。

2-5　青少年囲碁大会の開催（主な大会は以下の通り）

(1)　第30回　文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

地方大会は4,824人が参加（小学生:3,463人・中学生：1,361人）。全国大会は8月4日～5日の２日間、東京の日本棋院で開催され、小学生100人、中学生100人が参加し、大会の模様はNHK教育テレビで放送された。

(2)　第6回　文部科学大臣杯　小・中学校囲碁団体戦

地方大会は小学校302校、1,124人、中学校200校、852人が参加。全国大会は8月2日～3日の2日間、小中学生それぞれ1チーム3名編成の学校単位のチームの団体戦で開催し、小学校、中学校それぞれ64校、192名が参加。

(3)　第33回　文部科学大臣杯　全国高校囲碁選手権大会

地方予選では1,127校、4,591人(男子:3,692人・女子899人）が参加。各都道府県大会を勝ち抜いた代表選手による全国大会は7月27日～29日の3日間で、団体戦個人戦を行い、男子団体(代表48校)、女子団体(代表46校)、男子個人(代表96人)、女子個人(代表48人)が出場した。昭和54年第3回大会より日本自転車振興会（現、JKA）の青少年の健全育成補助事業の指定を受けて開催している。

(4)　第12回任天堂こども大会

中学生以下のこどもを対象に5月5日、日本棋院で開催。キャラクターの名称を使ってのクラス分け、9路盤、13路盤、19路盤の使用がこどもたちの人気を呼び、今年度も1,200人が参加した。

(5)　その他の大会

・ジュニア囲碁大会、丸の内キッズフェスタ、ジュニア囲碁パーク

2-6　囲碁少年少女育英資金による事業を継続

1. 囲碁の才能育成のための奨学金事業　（今年度該当者なし）
2. 囲碁の学校教育への導入推進事業（学校指導員派遣のべ109名）
3. 子供たちの囲碁大会支援、普及支援事業（大会支援2校、用具支援34校）

2-7　囲碁に関する研究事業を継続

(1)　東北大学との「囲碁と脳に関する研究」を継続

(2) 東京大学教養学部「教養教育への囲碁の活用研究部門」との連携

東京大学教養学部附属教養教育開発機構における寄付研究部門「教養教育への囲碁の活用研究部門」は、平成21年8月、寄付研究部門の3年間の活動成果を駒場キャンパス内で「東大囲碁フェスティバル」を開催し発表した（600名が来場）。同寄付研究部門は、平成21年9月末で所定の3年間の活動を無事終了した。

①　東京大学で全学ゼミナール「囲碁で養う考える力」を継続

②「親子で学ぶ囲碁の世界2009」を実施

2009年も好評で、34組79名の親子が参加した。

(3) 私立大学や都立高校における囲碁授業の実施

3　国内への囲碁普及活動を実施

3-1　会員制度の充実・強化

3-2　法人会員と法人賛助会員の維持拡大

平成22年1月、法人賛助会員企業を対象に、囲碁普及活動への理解を深めて頂く目的で、シンポジウム「囲碁の魅力と効用」を開催した。（参加者約70名）

3-3　全国囲碁組織の統括と各組織の活性化支援

(1)　都道府県民まつりの開催

1. 世界アマ選手権日本代表決定戦　県予選　　1,715名の参加を得た。
2. 日本棋院支部対抗戦　都道府県大会　全国21か所で実施。
3. 段級位認定大会　級位者から高段者まで、2,854名の参加を得た。

(2)　支部代表者懇談会の開催　全国の支部の代表者との懇談会を8会場で行った。

(3)　普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰の実施

(4)　棋士派遣　　全国に棋士を派遣し、地域の活性化と囲碁普及を実施。

(5)　囲碁未来教室開催　94教室で開催した。

(6)　普及指導員制度の拡充と指導員研修会の開催と派遣

3-4　免状、認定状の発行

3-5　インターネットによる普及事業

(1)　インターネット通信対局「幽玄の間」の運営

・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップレベルの棋譜を配信したほか、棋士による指導碁、棋士とのふれあいイベント等を実施した。

(2) 大和証券杯ネット囲碁アマチュア選手権の実施

(3)　情報会員、碁バイルセンターにて情報提供

3-6　院内事業の充実強化

(1)　囲碁学校・段級位認定大会・入門教室の開催

(2)　級位者の日、有段者の集い開催

(3)　表彰、殿堂入り、打ち初め式の実施

3-7　囲碁選手権・囲碁大会等の開催。（今年度の主な大会は以下の通り）

(1) 宝酒造杯クラス別戦

全国7ブロック、8会場で地方大会が開催され、2,000名余が参加した。
11月には全国大会を開いて各クラスのチャンピオンを決定した。

(2)　第52回全日本女流アマ選手権戦

各県大会を勝ち上がった選手128名が3月20日～21日の２日間、日本棋院で行われた全国大会に参加。

(3)　第47回女流アマ都市対抗戦

１チーム５名の団体戦。10月20日、21日の2日間、熊本市で開催。全国34の都道府県から122チーム約650人が参加した。

(4) 内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権大会

今年度は73団体、118チームが参加した。２会場の優勝チームは東京で決勝戦を行ない、内閣総理大臣杯が授与されました。

(5)　全国規模イベントへの参加

今年度の「国民文化祭」は10月24日～11月8日静岡県で、「ねんりんピック健康福祉祭」は9月5日から北海道・札幌市で開催された。生涯学習、文化向上、健康福祉への 一助として積極的に参加、協力を行った。

(6)　その他大会等

ジャンボ大会、オールアマ団体戦の実施

4　海外への囲碁普及活動

4-1　国際囲碁連盟（ＩＧＦ）の事務局活動

4-2　国際囲碁選手権・大会の運営・各地囲碁大会の後援

(1)　第30回世界アマチュア囲碁選手権戦の開催

本年度は節目の30回大会で5月27～30日、静岡県袋井市のエコパアリーナに66カ国・地域から66人の選手が参加して開催した。

(2) その他アマチュア国際大会、国際交流の支援及び後援

(3) 各地囲碁大会の後援

4-3　棋士海外派遣事業

(1)　文化交流使の支援

(2)　ＵＳ碁コングレスへの棋士派遣

4-4　海外囲碁会館の運営協力

Ⅲ　棋道研鑽推進

1　棋戦の運営

棋戦は、新しい囲碁の歴史を創造する場であり、棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たしている。インターネットを使用したネット棋戦では、新しい棋戦の形を囲碁ファンに提供している。若手棋士の育成強化を目的とする研鑽棋戦（幽玄杯）も、一部でネット対局を実施した。

2　院生研修制度の充実強化

国際的にも通用する強い棋士の養成が、極めて重要なものと位置付け、研修日には師範をおき、礼儀作法から院生の指導を行った。

本年度も、各種の院生強化支援により院生研修を充実強化した。

Ⅳ　出版事業

1　雑誌・新聞の発行

・月刊「碁ワールド」、月刊「囲碁未来」、「週刊碁」、「囲碁年鑑」

2　書籍発行

Ⅴ　広報活動

(1)　日本棋院ホームページの充実　　http://www.nihonkiin.or.jp

(2)　記者懇談会の定例開催

(3)　プレスリリース

囲碁に関するニュース等幅広く情報提供を行った。

Ⅵ　各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって本年度の事業計画を推進し、積極的に活動した。

1　八重洲囲碁センター

東京駅・八重洲北口という地の利を活かし、指導碁、盤石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校、特にこども教室の充実に努め、活動した。

2　関西総本部

(1)　関西管内囲碁普及

各府県の各種大会の開催定着を図り、府県下の支部活動を活性化し、会員及び囲碁ファンの拡大に努めた。支部に対しても棋士が訪問し、より一層の親睦を深めるとともに地域の囲碁普及に貢献した。

(2)　各種大会の開催及び後援（主な事業は以下の通り）

①第36回　近鉄囲碁まつり

8月7日～11日の5日間、大阪市の近鉄百貨店阿倍野本店で行った。羽根直樹本因坊、大竹英雄名誉碁聖、謝依旻女流二冠を迎え、会場は連日盛況となった。

②夏休みこども囲碁フェスティバル2009

8月6日に延べ700名が参加した。こども王座戦や棋力別認定戦、13路盤で棋士にチャレンジや初心者レッスン講座そして記念対局も好評だった。

③第42回　歳末たすけあいチャリティー囲碁まつり

井山裕太名人をゲストに迎えた記念イベント「名人戦7番勝負自戦解説会」では、名人自らが対局中の秘話などを披露し、会場は大いに盛り上がった。売上の純利益の一部とチャリティーボックスの募金を大阪老人・児童福祉のために寄贈した。

(3)　会館ホールの活用

6Fホールでは一般対局の他、指導碁、級位者の日、有段者の集いそして解説会を行い、初心者から有段者まで幅広く棋力向上に貢献した。

(4)　こども達への囲碁普及の充実

関西のこども達への囲碁普及をより充実させるため、関西棋院と共催して子供大会を行った。

3　中部総本部

(1) 中部管内の囲碁普及活動

日本棋院支部連合会、各支部の主催するイベントに積極的に後援・協力体制を図り、支部強化を推進した。また、法人賛助・地域サークルを中心としに、入門講座を実施、普及活動を行った。

(2)　各種大会の主催・共催等（主な事業は以下の通り。）

① アクティブシニアフェア2009　ナゴヤドーム　(延べ203名)
② まだまだ頑張る囲碁大会　(50名)
　ねんりんピック北海道・札幌囲碁名古屋市予選&ふれあい対局
③第24回愛知県・江蘇省青少年囲碁交流　(123名)
④第34回朝日アマ囲碁東海地区団体十傑戦　38チーム　(114名)
⑤第19回 大人のための級位者囲碁大会～夏季～　(48名)
⑥第24回愛知県･江蘇省青少年囲碁交流（来日）　(中国選手団14名)
⑦中部の囲碁ゼミナール　石川県加賀市山中温泉「翠明」　(87名)
⑧第15回知多半島囲碁まつり　知多市勤労文化会館　(77名)
⑨第11回中部こども級位者囲碁大会　(178名)
⑩第6回愛知県中学校囲碁選手権大会　(71名)
⑪第15回囲碁の祭典
　三重県熊野市木本小学校講堂・熊野市文化交流センター　(延　700名)
⑫日本棋院会員と棋士　囲碁のつどい　(192名)
⑬第46回日経杯・テレビ愛知杯争奪　新春囲碁大会　(206名)
⑭第51回女流アマ囲碁選手権大会 愛知県大会・東海地区女流囲碁まつり　(32名)
⑮第20回 大人のための級位者囲碁大会～冬季～　(55名)
⑯第27回ジャンボ団体囲碁選手権大会22チーム　(242名)

(3) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

中部総本部「第50期王冠戦」を終了。羽根直樹王冠位が挑戦者　山城　宏九段を破り、王冠位を防衛した。

(4)　指導碁・囲碁学校・級位者、有段者の日

指導碁、囲碁学校全11コースの充実を図った。「10アンダーの日」・「級位者の日」・「有段者の日」「Happy級位者・有段者」を日替わりで実施し、青少年からシルバー世代層まで幅広い囲碁ファンへの普及活動を行った。

平成21年度　主な棋戦の結果は以下の通り

１．棋聖戦　第34期棋聖決定七番勝負
山下　敬吾棋聖　－　張　　栩十段
（張　栩十段が4勝1敗で棋聖位を奪取）
２．名人戦　第34期名人決定七番勝負
張　　栩名人　－　井山　裕太八段
（井山　裕太八段が4勝1敗で名人位を奪取）
３．本因坊戦　第64期本因坊決定七番勝負
羽根　直樹本因坊　－　高尾　紳路九段
（羽根　直樹本因坊が4勝２敗で本因坊位を防衛）
４．十段戦　第47期十段決定五番勝負
高尾　紳路十段　－　張　　栩名人
（張　栩名人が3勝1敗で十段位を奪取）
５．天元戦　第35期天元決定五番勝負
張　　栩天元　－　山下　敬吾棋聖
（山下　敬吾棋聖が3勝2敗で天元位を奪取）
６．王座戦　第57期王座決定五番勝負
張　　栩王座　－　山田規三生九段
（張　栩王座が3勝0敗で王座位を防衛）
７．第22回世界囲碁選手権戦富士通杯
姜　　東潤九段　－　李　　昌鎬九段
（姜　東潤九段が勝ち優勝）
８．碁聖戦　第34期碁聖決定五番勝負
張　　栩碁聖　－　結城　　聡九段
（張　栩碁聖が3勝0敗で碁聖位を防衛）
９．新人王戦　第34期新人王決定三番勝負
李　　沂修七段　－　三谷　哲也五段
（李　沂修七段が2勝0敗で新人王を獲得）
10．女流本因坊戦　第28期女流本因坊決定五番勝負
謝　　依旻女流本因坊　―　青木喜久代八段
（謝　依旻女流本因坊が3勝1敗で女流本因坊位を防衛）
11．女流名人戦　第22期女流名人決定三番勝負
謝　　依旻女流名人　－　向井　千瑛四段
（謝　依旻女流名人が2勝0敗で女流名人位を防衛）
12．女流棋聖戦　第13期女流棋聖決定三番勝負
梅沢由香里女流棋聖　－　謝依旻女流本因坊
（謝　依旻女流本因坊が2勝0敗で女流棋聖位を奪取）
13．ＮＨＫ杯トーナメント戦　第57回
井山　裕太名人　－　結城　聡九段
（結城　　聡九段が勝ち優勝）

14. NEC カップ囲碁トーナメント戦　第 29 期
羽根　直樹 NEC カップ杯　－　河野　　臨九段
（河野　　臨九段が勝ち優勝）
15. 竜星戦　第 18 期
張　　栩名人　－　井山　裕太九段
（井山　裕太九段が勝ち優勝）
16. 阿含桐山杯全日本早碁オープン戦　第 16 期
張　　栩桐山杯　－　羽根　直樹本因坊
（羽根　直樹本因坊が勝ち優勝）
17. 王冠戦　第 50 期決定一番勝負
羽根　直樹王冠　－　山城　宏九段
（羽根　直樹王冠が勝ち優勝）
18. 大和証券杯ネット囲碁グランドチャンピオン戦　　第 3 回
高尾　紳路九段　－　河野　　臨九段
（高尾　紳路九段が優勝）
19. 大和証券杯ネット囲碁オープン　　第 5 回
井山　裕太名人　－　河野　臨九段
（河野　臨九段が優勝）
20. 大和証券杯ネット囲碁レディース　　第 3 回
謝　依旻女流本因坊　－　小林　泉美六段
（謝　依旻女流本因坊が優勝）
21. 第３期　幽玄杯精鋭リーグ戦
二十五世本因坊治勲が優勝